

【教科名】基礎化学工学 Fundamental Chemical Engineering <履修単位科目>						
学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	物質化学工学科	(必修) 2	通年	30	2	60
【担当教員】前田 良輔 【教員室】 7号館 2階 【TEL】 964-7319 【e-mail】 maeda@kct.ac.jp						
<b>【授業目的と概要】</b> 化学工学は、様々な工業製品を生産するためのプロセスに関する学問であり、多くの装置や操作が関与する。そこで、化学工学の基礎となる単位換算と次元解析、物質収支、熱収支、気体の状態方程式、熱化学、燃焼計算等の理論を学び、プロセス設計、最適化、経済性評価、運転管理の場面に応用できる基礎的な能力を養成する。						
<b>【授業の進め方及び履修上の注意】</b> 教科書に沿って授業を進める。式はその意味を解説し、それに基づいた例題や演習問題を解くことによって理解を深める。後期の後半は基本的なものから応用に至る幅広い難易度の総合的な演習問題を解きながら知識の定着をめざす。化学と数学の基礎が必要であり、関数電卓の取り扱いを含め迅速で正確な計算力も要求される。						
授 業 項 目	内 容					時間
【前期】						
単位換算と次元解析	SI 単位系を中心に化学工学で用いられている様々な単位系での換算と $\pi$ 定理に基づく次元解析を理解する。					8
気体の状態方程式	理想気体の状態方程式、van der Waals の状態方程式、z 線図などのいくつかの方法で気体の圧力や体積、ならびに物質量の関係を理解する。					8
中間試験						
物質収支	混合、乾燥、蒸発、蒸留、吸収などの物理操作や化学反応を伴う系における物質の量的関係を理解する。					14
期末試験						
【後期】						
熱収支	熱化学を基礎とし、熱交換器などで行われるエネルギー（主として熱）の量的関係を理解する。					6
燃焼計算	様々な可燃物と空気などの混合物の燃焼計算、燃焼ガス組成、理論空気量などを理解する。					8
中間試験						
総合演習	前期からの全単元について幅広い難易度の演習問題を実施する。					16
定期試験						
<b>【達成目標】</b> ・単位の換算、次元解析が自在にできる ・気体の状態方程式のもつ意味を理解し取り扱うことができる。 ・物理操作および化学反応を伴う系における物質収支式や熱収支式を立てることができ、量的な関係を明らかにすることができる。 ・熱化学に基づいて、気体・液体・固体の様々な燃料の燃焼計算を行い、理論空気量、燃焼ガス組成、理論燃焼温度を算出することができる。				<b>【教科書】</b> 化学工学 改訂第3版—解説と演習—朝倉書店、化学工学会監修、多田豊編 <b>【参考書】</b> 入門 化学工学 改訂版 培風館、小島和夫他著		
<b>JABEE 教育目標</b> 準学士課程目標 (A)①②, (B)①						
成績 評価	<b>【評価基準】</b> 化学工学の基礎事項について、理論を理解した上で迅速で正確な計算ができること。			<b>【オフィスアワー】</b> 金曜日 放課後		
	<b>【評価方法】</b> 定期試験 80%, 課題レポート 20%とし、60 点以上を合格とする。					